

大阪宣言

日本と中国の全国津々浦々から日中双方300名を超える人々が大阪に集い、9月22日から23日にかけて、第14回日中友好交流会議を「民間交流の新たなる高まりを！」というテーマのもとに開催致しました。

この友好交流会議は、日中双方の友好協会の宇都宮徳馬、廖承志両会長の発意で生まれ、第1回が1983年北京で開催されました。日常的に日中友好交流に携わるもの同士が、率直に問題点を語り合い、友好事業を発展させたい願いからでありました。約30年にわたり、日中関係の紆余曲折、山あり谷ありの道のりの中で、大きな役割を果たしてまいりました。

現在日中関係はご承知のとおり歴史問題と領土問題により、この数年大変厳しい状況下にあります。日中両国民の国民感情も、冷え切っております。わたしたちは、一衣帯水の隣国である日中両国が、このような状態であってはならないとの思いからここ大阪に集まりました。

思えば、両国の先輩は歴史的教訓に基づき、国交正常化の実現のため、犠牲を恐れず心血を注ぎました。長年にわたり民間交流に尽力してきたわたしたちは、歴史を振り返り「争えば共に傷つき、和すれば共に栄える」という言葉をかみしめ、日中友好が両国民の根本的利益に合致することを重く認識しております。

わたしたちは、歴史をかみしめ、未来を展望し、豊かな民間交流を、着実に、力強く推進し、「相互に温かく、思いやりのある」友好交流ができる新しい局面を作り出す決意であります。

さらに、わたしたちは、日中両国関係に問題が起これば、日中共同声明をはじめとする4つの重要な文書の原則と精神に拠りどころを求めて、早急且つ適切に対処すべきだと思います。現在、両国は共に叡智を出し合って、早急に難局を乗り越え、日中関係が健全且つ安定的な発展の軌道に戻れるよう努力しましょう。

2014年9月23日
第14回日中友好交流会議
(日本・大阪にて)